

令和元年度 事業報告

1. 概況

現在、我が国では、人口の減少にともない少子高齢化が進み、総人口に対し65歳以上の人口が占める割合は現在28%となっており、2060年には40%近くになることが予測されています。

こうした状況の中で、高年齢者の就労意欲は高く就業率は上昇を続けており、内閣府が実施した「平成25年度高齢期に向けた意識調査」によると、「65歳を過ぎても働きたい」とする人が約50%を占めています。

今後、労働力人口の減少が懸念される中、働く意欲のある高年齢者がその知識や経験を活かし、活躍し続ける「生涯現役社会」を実現するには、働きたいと願う高齢者の就業率を上げていくことが重要であり、その受け皿であるシルバー人材センターに向ける地域社会の期待は一層大きなものになってゆくと考えられます。

平成30年度における我が国のシルバー事業は、受注件数が343万件、契約金額は3,185億円で前年度を上回っており、令和元年度も前年度を上回る見込みで推移しています。

尚、会員数については71万4千人と前年度を下回りましたが、ここにきて底打ちとなりつつあります。

さて、当センターは昭和57年、県下7番目のセンターとして設立され、公益社団法人へ移行して8年が経過しましたが、センターを取り巻く環境は大変厳しい現状にあります。公益法人としての組織運営、増加する事務量、適正な請負契約、派遣事業への参入、会員数の伸び悩みなど、課題が山積しています。

令和元年度は、契約金額の伸び悩みに歯止めをかけるべく、役職員及び会員が一丸となって「就業開拓」及び「賛助会員の拡大」等、積極的に事業展開を行いました。

また、派遣業務については、事務費の負担が請負・委任に比べ高いことから伸び悩んでいましたが、契約は19件で前年度比7件の増、受託収益1,00

4千円で前年度比558千円の増と大幅に増加しました。

賛助会員については、役員並びに事務局の尽力により団体・個人含む18者の賛同を得るに至りました。

契約金額は274,758千円で前年比872千円の増となり、内訳は公共事業38,122千円、一般企業等168,988千円、個人・家庭67,648千円です。

一方、契約件数は4,959件、就業延人数は49,396人、また、今年度末の総会員数は会員皆様による口コミや普及啓発活動等の効果もあり、前年比14人増の529名となりました。

令和元年度は、台風15号をはじめ多くの災害を受け厳しい状況にありましたが、市原市をはじめとする行政機関、企業、事業所、そして一般の皆様からの大きな支援をいただきながら、会員皆様のご尽力により、センター事業の推進と地域社会に貢献するための事業展開が図れたものと確信しております。

以下、具体的な事業の実施状況についてご報告いたします。

2. 事業実施状況

①普及啓発事業

- 6月10日の「千葉県シルバー人材センターの日」にちなみ、当センター駐車場にて会員による「刃物研ぎ」の実演や、入会・受注相談コーナーを開設、普及活動と新規会員の勧誘促進を図りました。
- センターの事業案内・会員募集リーフレット（チラシ）を増刷し、発注者及び市内各支所や商業施設・企業・事業所等に配布しました。
- 令和元年7月及び令和2年3月に、会報「シルバーいちほら」（WEB版）をホームページ上に掲載し、情報の共有を図りました。
- 令和元年6月に当センターのホームページをリニューアルし、講習会の開催や募集中の仕事の情報などを掲載することでより利便性を高めました。

②安全・適正就業推進事業

- 令和元年7月及び12月に「安全・適正就業委員会」を開催し、安全推進委員からの要望を受け、意見交換を行いました。なお、令和2年3月に予定していました「安全・適正就業委員会」については、新型コロナウイルス感染症の感染防止のため中止としました。
- 毎年7月に全国展開される「安全・適正就業強化月間」に呼応して、桃太郎旗等を事務局前に掲示しました。
- 安全委員会及び推進員による安全就業の啓発活動や、事故防止の徹底を図るため担当役員を中心に就業先への安全巡回指導を2回、推進員による安全パトロールを3回実施しました。
- 毎月新入会員説明会を開催し「会員のしおり」を解説すると共に、ビデオ上映による安全教育と交通事故防止策を訴え「シルバー会員傷害・賠償保険」の理解と協力をお願いしました。

令和元年度の事故発生状況は、傷害事故8件（前年比1件増）賠償事故が10件（前年比6件減）交通事故0件（前年比6件減）となり、全体的に事故は減少しました。

特に、交通事故防止対策として市原警察署と連携し「高齢者の交通安全講習会」を11月に開催しました。多くの皆さんの参加を頂いたことで、活発な意見交換が行われ、交通事故の減少に繋がったものと考えています。

令和2年度についても、交通事故防止のため安全講習会を予定してまいりますので、皆さんの参加をお願いします。

なお、作業中の不注意による飛び石のガラス破損や電線の切断などの賠償事故が多く発生していますので、今後も十分な対策と会員各位には細心の注意を払うようお願いします。

③調査・研究と相談事業

- 入会説明会開催日に、一般市民や会員対象の相談会を実施し、随時入会と就業相談に応じました。
- 発注先や会員からのクレームや要望を取りまとめ、事例の分析及び改善点を見直し、今後の顧客対応に反映させるよう心掛けました。

④就業開拓提供事業

- 「広報いちほら」・地域情報誌「ちいき新聞」の活用や、センター事務局に桃太郎旗を掲げる等、積極的な呼び掛けを行い、センター事業への参加と入会促進を図りました。

しかしながら、定年の延長や再雇用制度の影響もあり、新規入会者数は前年比13人減の88名となりました。

- 令和元年7月・11月及び令和2年2月から3月にかけて、市内全域にチラシ約9,000枚を配布し、就業拡大・会員増加に努めました。

また、一般家庭・企業等への訪問やポスティングを実施し受注開拓に努めると共に、新たな顧客拡大のため、就業開拓専門員4名による営業活動を積極的に展開し、新規にスーパーの品出し管理業務等10件の契約を取得し、会員の就業確保に繋がりました。

- 各講習会への参加を積極的に呼びかけスキルアップを図り、意識の転換を促進するとともに、長期就業会員に対してはローテーション就業等、就業機会の均等化を図りました。

シルバー事業の受託事業は「請負」「委任」及び「派遣」の就業が原則であり、各契約が「適正就業」であるかを見直すなど、就業の再点検を実施しました。

尚、「派遣事業」については、平成27年度より着手しており、令和元年度の契約件数が19件（昨年度比7件の増）・受託収益が1,004千円

(昨年度比 558 千円の増) ・就業人員が 21 人 (昨年度比 3 人の増) と大幅な増加となりました。今後も積極的に推進し雇用の確保に努めてまいります。

- 職群班世話人会議を開催し、各就業現場から広く意見や要望を拾い意見交換をするとともに、課題解決に向け支援・協力をお願いしました。

中でも後継者育成について、植木班及び大型スーパー班では、活発な部会を開催し、就業マニュアル・作業要領の作成や講習計画の検討など、大きな成果が得られました。

令和元年度の実業率は 81.9% と多くの未就業会員がおりますので、就業機会の拡大に向け、就業開拓専門員との連携を含め積極的に対応を図ってまいります。

⑤研修・講習事業

会員の知識や技能のスキルアップを図り受注機会の拡大及び後継者の養成等に対応するため、当センター及び公共施設等に於いて、下記の講習会を実施しました。

- 令和元年 6 月 28 日
障子・網戸の張替え講習会 (於 姉崎地先) 参加者 15 名
- 令和元年 7 月 4 日
第 1 回草刈機講習会 (安全操作・機械メンテナンス) 参加者 20 名
- 令和元年 7 月 30 日
第 2 回草刈機講習会 (講義・実技) 参加者 8 名
- 令和元年 8 月 28 日
第 1 回植木講習会 (於 有秋地先) 参加者 9 名
- 令和元年 9 月 26 日～27 日 (2 日間)
家庭清掃 (中級) 講習会 (講義・実技) 参加者 8 名
- 令和元年 10 月 10 日

- 第3回草刈機講習会（講義・実技） 参加者8名
- 令和元年11月14日
交通安全講習会（高齢者の交通安全） 参加者25名
- 令和元年11月20日
接遇力向上研修会（屋内作業班・ゴルフ場班員対象） 参加者12名
- 令和元年11月26日～27日（2日間）
施設清掃（クリーンスタッフ）講習会（講義・実技）参加者7名
- 令和元年12月2日
地元食材活用講習会（女性部会主催） 参加者15名
- 令和元年12月19日
チェーンソー講習会（講義・実技） 参加者20名
- 令和2年1月17日
第2回植木講習会（於 南国分寺台地先） 参加者14名
- 令和2年2月12日～13日（2日間）
襖の張替え講習会 参加者 19名
- 令和2年2月17日
太巻き寿司講習会（女性部会主催） 参加者16名

⑥社会参加活動推進事業

- 会員ボランティア（植木班）により、市内の中学校2校の樹木剪定作業を行いました。
- 役職員及び会員有志によるペットボトルキャップの収集や資源ごみの回収・分別等を行いました。

⑦財政基盤の確立

経営の原資は、国や市原市の補助金と発注者が負担する事務費収入です。
補助金の見直しや減額とともに契約高の伸び悩みもあり、ここ数年事務費収

入は減少し、経済的自立性が求められます。

そこで受注量の拡大と「自主財源」の確保に向けて、料金改定委員会を設置して仕事料金の価格について検証し、平成31年4月より料金を改定しました。

また国・市原市の補助金等を確保するため、市原市長はじめ副市長への要望活動を継続的に行ってまいりました。

さらに、特定公益増進法人の活用を図り、市内の得意先及び協力業者などに働きかけを行った結果、市原商工会議所はじめ18社より賛助会員のご協力を頂きました。来年度も、引き続き継続をお願いするとともに、支援企業・事業所の拡大に向け努力してまいります。

年度末や年度当初の運転資金不足による借入金依存の財政体質から脱却すべく、経費の見直し及び節減、効率的な予算運用を心がけ、金融機関からの借入金の削減を図りました。

しかし、年度末に発生した新型コロナウイルス感染症の影響による厳しい状況が見込まれるため、引き続き就業開拓、受託事業収入の拡大を最優先に、国・市の補助金を含む迅速な債権回収と新規就業先の積極的な開拓等、収支バランスのとれた健全な財政基盤の確立に努めてまいります。

⑧組織体制の強化

シルバー人材センターの基本理念である「自主・自立、共働・共助」の考えの下、専門部会及び専門委員会活動においては、積極的な活動による自主的運営に取り組みました。

中でも多様化するセンター事業に対応するため職群班の再編を実施し、17班529人（令和元年度末会員数）に見直しするとともに、効率的なセンター運営や情報の共有・ボランティア活動への参加など対応を図りました。

また、女性会員の就業機会増大のため、各種研修会や講習会（地元食材活用講習会、太巻き寿司講習会）を企画するとともに、女性部会の組織強化に

努め、多くの女性会員の皆さんに参加していただき、活発な意見交換が行われました。

更に、構成員の多様化を図り、地域ニーズに対応した新たな職種開発と、会員の活躍できる場の拡大を視野に、JA市原市との連携を図りました。

また、増加する受託事業の契約事務等に対応するため、会員の中から職員を2名採用し、事務局体制の強化と効率的な組織運営を図りました。